

私立大学図書館協会 2015年度第1回東西合同役員会議事要録

日 時：2015年8月26日（水） 14時00分～16時35分
場 所：明治学院大学（横浜キャンパス） 6号館3階630教室
出 席 者：名簿のとおり

議事に先立ち、会長校挨拶の後、出席者の自己紹介が行われた。
議事進行は、東洋大学附属図書館・青木辰司館長が担当した。

配布資料について、次のとおり修正の説明があった。

- ・3ページ 総会議長候補 東京理科大渡辺一之図書館長の意見交換「○」は削除。
- ・4ページ (1)②と③の「※協議事項5」は「※協議事項4」に訂正。

[報告事項]

1. 協会会務報告（2015年4月～7月）

会長校（東洋大学・千葉）より配付資料（p.4～6）にもとづき報告が行われた。

2. 東地区部会会務報告（2015年4月～7月）

東地区部会長校（学習院大学・中村）と東地区理事校・研究部担当（桜美林大学・佐々木）より配付資料（p.7～11）にもとづき報告が行われた。

休会となっているLーラーニング学習支援システム分科会は、再開がなければ廃会となる。

資料の追加・変更について、次のとおり説明があった。

- ・資料10ページ（4）研修委員会の研修委員（任期2015年4月1日～2017年3月31日）は、（任期2014年4月1日～2016年3月31日）に訂正する。
- ・資料11ページ（5）研修会の日程は、2015年11月上旬とあるが、11月4日（水）、5日（木）に開催予定である。

なお、部会総会について、東地区部会長校（学習院大学・中村）より、今年度は地域活性化の一環として、初めて首都圏以外の東北学院大学を会場として開催した。東北ブロックの参加率は上がったが、参加率が下がった地域もあった。今後は、研修会や事務長会を地方開催することや、これにブロック選出理事校がどのように関わっていくか等、検討していきたい。研修会については図書館支援機構の活用も検討する。以上のとおり報告が行われた。

3. 西地区部会会務報告（2015年4月～7月）

西地区部会長校（福岡大学・井口）より配付資料（p.12～21）にもとづき報告が行われた。

なお、従来総会当日に実施していた館長懇話会については、本年度は総会前日に館長懇談会として、西地区部会役員会の意見交換会と同時開催の形式で実施したとの追加報告があった。

4. 委員会報告（2015年4月～7月）

（1）協会賞審査委員会報告

協会賞審査委員長（慶應義塾大学・松本）より配付資料（p.22）にもとづき、第1回委員会を明日8月27日に開催し、協会賞の募集ならびに協会賞審査委員会の日程に関する件について協議する予定であるとの報告が行われた。

（2）研究助成委員会報告

研究助成委員長（名城大学・皆見）より配付資料（p.22）にもとづき、会議報告が行われ、2016年度研究助成応募と今後のスケジュールについて明日の総会で発表予定であるとの報告が行われた。

（3）国際図書館協力委員会報告

国際図書館協力委員長（慶應義塾大学・館）より配付資料（p.22～24）にもとづき、会議報告ならびに委員会の事業について報告が行われた。

委員会について、第1回はメール会議で開催し、新メンバーでの会議は第2回が最初であった。内容は、これまでの課題を委員で共有したこと。また、大学図書館短期研修への講師として、前年度の海外派遣研修の該当者がいないことから、海外集合研修の参加者を推薦した旨報告があった。2015年度の実施事業については資料のとおりであるが、海外集合研修は、先ほど委員間で共有した課題との関係から2015年度は、これを実施せず、海外集合研修のあり方を検討する時間にあてたいとの結論になった。

（4）協会ホームページ委員会報告

協会ホームページ委員長（東洋大学・松浦）より配付資料（p.24）にもとづき、今期委員会から構成がこれまでの11名から4名の委員会体制になったことの報告があった。これを踏まえ、セキュリティを含む従来からの課題について審議したこと、また、会議報告ならびにWWW情報資源提供サービス利用状況、業務委託業者作業件数について報告が行われた。

今年度より新規で業務委託しているコンテンツ掲載は年間100件程度の見込みであるので、7月までの48件は順調である旨の報告が行われた。

5. 協会関連事項報告（2015年4月～7月）

会長校（東洋大学・千葉）より配付資料（p.25）にもとづき、主に次のような報告が行われた。

（1）国公立大学図書館協力委員会

第78回国公立大学図書館協力委員会が2015年7月24日に開催された。

（2）日本図書館協会

2015年度第1回代議員総会が2015年6月18日に開催された。

（3）後援・共催

①第17回図書館総合展の後援

②第101回全国図書館大会の後援

いずれも例年通り後援するが、名義使用のみで経費は発生しない。

6. 2015年度協会役員校、委員会および協会関連団体委員について
会長校（東洋大学・千葉）より配付資料（p.26～29）にもとづき報告を行った。
なお、配布資料の下線部分は2015年4月1日以降の追加である。
7. 2015年度行事・会議予定
会長校（東洋大学・千葉）より配付資料（p.30）にもとづき、今後の予定について報告が行われた。
8. 第76回（2015年度）総会・研究大会の受付状況等について
当番校（明治学院大学・秋月）より次のとおり報告があった。
東地区、参加153校315名、委任状130校。
西地区、参加99校145名、委任状166校。
合計、参加252校460名、委任状296校。

[協議事項]

1. 2014年度一般会計・特別会計決算報告（案）
会長校（東洋大学・千葉）より配付資料（p.31～33）にもとづき、前回2015年3月6日開催の東西合同役員会以降の変更部分を主に説明ならびに提案が行われた。
また、2014年度監事校（立教大学・宇佐見）より決算報告について関係書類等の監査を行った結果、資料（p.34）のとおり適正であるとの報告がなされた。協議の結果、提案のとおり承認された。
2. 2015年度事業計画（案）
会長校（東洋大学・千葉）より配付資料（p.35～36）にもとづき、主旨説明ならびに提案がなされた。協議の結果、提案のとおり承認された。
3. 2015年度一般会計・特別会計予算（案）
会長校（東洋大学・千葉）より配付資料（p.37～40）にもとづき、2015年度一般会計ならびに特別会計に関する予算について、前回2015年3月6日開催の東西合同役員会以降の変更部分を主に説明と提案が行われた。
 - （1）一般会計
 - 【収入】昨年度実績により算出。前回役員会資料から繰越金額に変更がある。
 - 【支出】昨年度予算を基本に算出。事業費のうち国際図書館協力事業支援費は、2015年度は国際シンポジウムが開催されないため、1,000千円の減額がある。部会交付金は2014年度の額であったので、単価に加盟校数を乗じた額に修正した。
 - （2）特別会計
 - ①研究助成特別会計
 - 【収入】前回役員会資料から繰越金額に変更がある。
 - 【支出】2015年度助成採択2件分を計上。なお、このうち1件は2年間の研究なので初年度の額を計上している。

②国際図書館協力特別会計

【収入】国際図書館協力事業支援費および事業収入は、2015年度シンポジウムを開催しないことによる減額となっている。なお、基金の寄付は委員会では中止を決定したが、予算上はそのままの額を計上している。

【支出】シンポジウムを開催しないことによる運営費の減を含め、数字は変わっていない。なお、海外集合研修は委員会では中止を決定したが、予算はそのままの額を計上している。

③総会・研究大会特別会計 第76回(2015年度)

【収入】【支出】収入・支出ともに前回役員会と同じである。

出席者から、総会・研究大会特別会計について、前年度はかなりの額の戻入があることについて質問があった。

会長校より、これまでは一般会計への戻入が生じる場合が多かったが、これは個別の事情によるもので、今年度がどのようになるのかは決算を待ちたい。なお、前年度予算との差異、特に、支出で減となっている科目・内訳が多いことについて、支出で計上した「運営、準備委託業務費」は、当初当番校から業務委託運営の希望があり、総予算の関係から他の費目を減額して予算を作成した。但し、準備の進展に応じて業務委託は不要となったが予算はそのままの数字で諮りたい。決算は実際の支出に応じた内容になる見込みであるとの回答があった。

協議の結果、提案のとおり承認された。

4. 2015年度新規加盟校および脱退校(案)

会長校(東洋・千葉)より配付資料(p.41)にもとづき、次のとおり説明ならびに提案が行われた。本年度の新規加盟校の申出は1校である。また、脱退校申出は6校となっている。なお、脱退申出の理由は、大学閉鎖・募集停止、人員不足・経費節減という内容であった。協議の結果、提案のとおり承認された。

5. 国際図書館協力委員会提案

次の2件について、国際図書館協力委員会委員長(慶應義塾大学・館)より説明および提案があった。

(1)2015年度海外集合研修について

(2)2015年度国際図書館協力基金の支援依頼について

報告事項での委員会報告のとおり、本委員会については、以前から委員会事業が多岐にわたるため、委員会の負担軽減・作業の合理化・効率化の提案がなされたこともあり、7月開催の第2回委員会でこれらの課題を共有・検討した。このうち、受入先の負担も大きく、費用対効果の関係からも検討が必要であった海外集合研修について、2015年度は一旦中止とし、今期委員会では研修のありかたを検討することになったので、東西合同役員会に諮りたい。

また、基金への支援依頼は、繰越金額も大きく2015年度の事業も縮小の方向であるため行わないとの結論になったため併せて提案したい。

これらについて質疑があり、2015年度海外集合研修の中止は承認された。

2015年度国際図書館協力基金の支援依頼は、他の実施事業との関係や寄付企業側の事情等もあるので、継続を前提に委員会へ持ち帰り検討し結論を出すことになった。

6. 第77回（2016年度）総会・研究大会について

次期当番校（上智大学・後藤）より配付資料（p.42）にもとづき、説明ならびに提案が行われた。

大会テーマを2つ提案したのは、講演者や加盟館全体を考慮すると案2も考えられるためであり、案1と併記して役員会での意見を確認したいことによる。

協議の結果、案1を2016年度総会・研究大会のテーマとすることが承認された。

7. 協会関連団体委員の推薦について

(1)「国際ILL検討タスクフォース」委員

(2)「Webサイト構築タスクフォース」委員

会長校（東洋大学・千葉）より、どちらも国公私図書館協力委員会からの依頼で、別途配布されている国公立大学図書館協力委員会資料（資料24、25）にも記載があるが、私大図書館協会から(1)は1名、(2)は1名以上の委員をもって組織されることになっている。(1)は慶應義塾大学関氏、(2)は早稲田大学荘司氏と慶應義塾大学関氏を私大図書館協会からの委員として推薦したいとの提案があった。

協議の結果、提案のとおり承認された。

[懇談事項]

1. 国公立大学図書館協力委員会への協力費について

国公立大学図書館協力委員会委員（早稲田大学・荘司）より、次のとおり説明・提案があった。

国公立大学図書館協力委員会で作成している「大学図書館研究」と「大学図書館協力ニュース」について、オープンアクセス化を目的にWebサイトを立上し広く公開する計画がある。そのスケジュールは資料（p.43）のとおりである。オープンアクセス化に伴いこれらの2つに加え「相互協力便覧・追録」を含む同委員会の収入となる収益分配金がゼロになってしまう。繰越金額は平成23年度をピークに減少しており、今後の収支を勘案し、先のオープンアクセス化が私立大学図書館協会の加盟館にもメリットになると考えられることから、私立大学図書館協会からの協力費について70万円程度の増額をご検討いただきたい。

この件については、増額を前提に12月常任幹事会で検討することとなった。

2. 機関リポジトリの新協議会設立について

東地区監事校（明治大学・菊池）より、配布資料（p.48）に基づき説明があった。

説明の前に、NIIと国公立大学図書館協力委員会との関係や機関リポジトリ推進委員会の位置づけについて、わかり易い図が、別途配布されている国公立大学図書館協力委員会の資料にあるので参照してほしい。（資料27、p.105）

今回この件を議題にしたのは、日本のリポジトリに関するいくつかの取組を統合再編し、大学図書館全体の取組として推進するための新協議会を設立したいという構想があることを私立大学図書館協会の加盟館にもお知らせしたためである。

この件については、明日総会の協会会務報告の場で配布資料と同じ資料を別途配布し周知することとした。

3. 第76回（2015年度）総会・研究大会について

当番校（明治学院大学・鈴木）より、当日のスケジュールについて説明があった。

以上、すべての議事を終了し、議長が閉会を宣した。

以上

<配付資料>

1. 「私立大学図書館協会 2015年度第1回東西合同役員会」(p.1～48)

(別添)

第78回国公私立大学図書館協力委員会資料・追加資料 (p.1～124、p.1～3)

国際図書館協力委員会、2015年度海外派遣研修概要資料 (英文)